

技術と社会部門 2012 年度部門賞 部門功績賞受賞者挨拶

技術と社会部門功績賞を受賞して

大久保英敏(玉川大学工学部機械情報システム学科)

この度は2013年度功績賞受賞の栄誉を賜り、大変光栄に思っております。技術と社会部門に関わる会員の皆様に感謝申し上げます。

私が部門長を務めた第85期は技術と社会部門にとって大きな転換期でした。その後の部門の発展は皆様をご存知の通りですが、地域・支部における活動が認知されるようになり、機械工学の技術を一般社会に繋ぐ活動が実ってまいりました。部門の活性化が実現できたことは、技術と社会部門に関わる会員の皆様のご努力の賜物であり、改めて敬意を表し、お礼を申し上げます。

技術と社会部門で行われている活動の大きな柱として、技術史・工学史と技術教育・工学教育があります。また、部門講演会は“過去から未来を訪ねる”をテーマとしています。日本機械学会創立110周年記念事業として行った機械遺産はマスコミ等で取り上げられており、社会に認知されるようになりました。2008年に玉川大学で開催した新☆エネルギーコンテストは技術と社会部門主催のコンテストに発展し、2012年度から福島県郡山市の日大工学部で開催され、学生たちが未来の技術につながるアイデアを考え、競っています。

“機械遺産”は、既に一般社会で高い評価を受けており、日本機械学会と市民との距離を近づけることに成功いたしました。部門の歴史を辿ると、日本機械学会創立100周年記念事業の一つとして、「機械記念物(工作機械編)」が発行されており、「歴史に残る機械記念物を大切に保存し、文化遺産として次世代に伝えていかなければならない。」との目的が記されています。機械遺産の名称は、亡くなられた前田清志元部門長の著書「日本の機械遺産:オーム社(2000.12)」に使用されています。技術と社会部門は部門内に機械遺産委員会を設置し、認定に関わっていますが、機械遺産委員会が部門の活性化に大きく貢献したことは誰もが認める事実です。一方、新☆エネルギーコンテストは、技術教育・工学教育の実践として、ロボコンやソーラーカーレースのような全国規模の大会を目指したコンテストです。課題と開催場所を変え、高専生や大学生が参加できる大会として企画されましたが、規模を拡大するためには技術と社会部門に関わる皆様のさらなるご協力が必要であると感じております。

技術と社会部門の大きな役割は科学技術と社会との橋渡し役を果たすことであると思っておりますが、機械遺産は、すでに科学技術のインタープリターとして一般社会に認知されています。新☆エネルギーコンテストも、いずれは同様の役割を果たしてくれるものと期待しております。

最後に、部門の益々の発展を祈って、お礼の言葉といたします。ありがとうございました。

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.30

(C)著作権: 2014 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門